

負荷心電図検査					S006
					担当部署
マスター負荷					生理
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→心電図→負荷心電図シングル(1.5分)			
	2	電子カルテ→指示①→生理→心電図→負荷心電図ダブル(3分)			
	3	電子カルテ→指示①→生理→心電図→負荷心電図トリプル(4.5分)			
	4	電子カルテ→指示①→生理→心電図→立位負荷心電図			
	5				
検査に影響する臨床情報		ジキタリスにより盆状のST低下がみられる。			
検査受付時間		8:45~17:30			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		検査直前の激しい運動は避ける。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	人体(心臓)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		医師が立ち会いのもとで検査実施 ベッド不可			
検体受入不可基準		1)安静を保つことができない患者 2)階段昇降ができない患者 3)急性心筋梗塞(急性期) 4)不安定狭心症 5)重症大動脈狭窄症 6)重症の不整脈・心不全			

		7)検査に同意が得られない患者				
保管検体の保存期間		特記事項なし				
検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		3 時間				
生物学的基準範囲		<p>1) P 波 I・II で上向き、高さ 0.25 mV 以下、幅 0.07 秒～0.10 秒</p> <p>2) PQ 間隔 0.12 秒～0.20 秒</p> <p>3) QRS 群 R の大きさは II > I > III の順、高さ 0.6 mV～1.6 mV, Q は R の大きさの 1/4 以下、幅 0.04 秒以内 S の幅 0.06 秒以内 QRS 時間 0.06 秒～0.10 秒</p> <p>4) ST 零線上から、0.1 mV 以内の上昇、0.05 mV 以内の下向き</p> <p>5) T 波 I・II は常に上向き、高さ 0.2 mV～0.5 mV で P の高さの 2 倍、幅 0.10 秒～0.25 秒</p> <p>6) QT 間隔 0.35 秒～0.44 秒</p>				
臨床判断値		安静時の心電図より変化が見られる場合				
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	急性心筋梗塞を疑う ST 上昇 心室頻拍 心室細動				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		運動負荷心電図検査とは、坂道を走る、急ぎ足で歩くといった日常生活の中で現れる胸痛・動悸・息切れなどの症状を運動によって再現し、その時の心電図の変化をみて運動中の心臓の状態を調べる検査である。				